論 文 要 旨（プロポーザル）

所属ゼミ	髙木晴夫 研究会	学籍番号	80831049	氏名	堀田　陽一郎

（論文題名）

主題　日系総合化学メーカーと海外化学メーカーの企業パフォーマンスの差異に関する考察

副題　三菱化学とデュポンを事例研究対象として

（内容の要旨）

化学業界は興味深い。扱う製品の大半において最終消費者には馴染みはないものの、それらは間違いなく我々の生活の根底を支えるものである。中でも総合化学メーカーは、ナフサの分解やエチレンクラッキングに始まり、汎用樹脂、高機能樹脂、情報電子化学製品、医農薬原体等、中間体から最終製品まで、非常に幅広い製品分野を抱えている。また、戦前まで遡る長い歴史を経て、多くの製品の製造設備が相互に密接に関わり合っている総合化学メーカーにおいては、様々な施策により国内市場および海外市場における競争力の向上を図ってきた。

しかし、日本の総合化学メーカーに注目すると、日本国内市場では海外の総合化学メーカーに比べて売上高こそ優位にあるが、海外市場では優位性が無く、海外の総合化学メーカーに対して、売上高、利益率、企業価値において劣位に甘んじている。そしてこの事象を疑問に思う人間は業界関係者を中心に存在するが、その原因追究の取り組みは限定的であった。日系総合化学メーカーの組織においては単純に規模の経済が働かない体質となっているためなのか、多様な事業領域を抱えるがゆえのマネジメントの困難さを克服できないためなのか、本来は一貫性を保って管理すべきサプライチェーンが分権化の結果として連携の困難な複数組織にまたがって担われているためなのか、指摘はあるが、その追求は十分とは言い難い。

日系化学メーカーと欧米化学メーカーを取り巻く現状認識および筆者の業務経験に基づき、本研究作業では日本の化学メーカーとして売上高トップの三菱化学と、それに対して売上高でも利益率でも優位性を保つ海外メジャー、デュポン社の経営状況の整理分析を行い、仮説の設定および検証を実施する。その上で、日系総合化学メーカーと欧米総合化学メーカーの競争力差異における問題点と改善提案のために事例研究の結論の一般化を試みる。